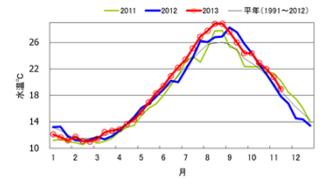




鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)

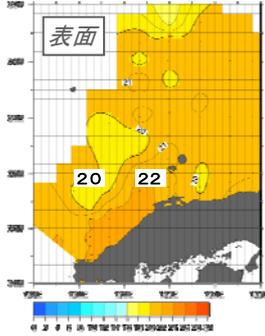
11月中旬 19.0°C

平年並み

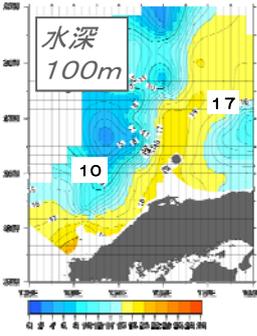


発行 鳥取県水産試験場 (電話:0859-45-4500)

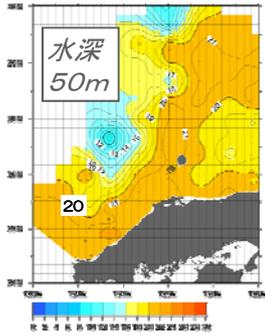
試験船による海洋観測結果 (11月上旬)



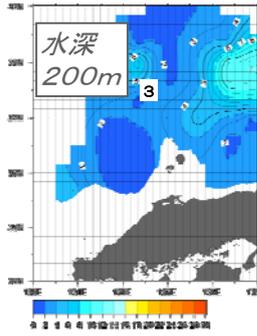
鳥取県沖と隠岐周辺海域は21°C前後で先月より4°C低下し、平年より1~2°C高めの値となっています。



隠岐周辺海域と鳥取県沿岸域では18°C前後でした。



鳥取県沖と隠岐周辺海域は20°C前後で先月とほぼ同値、隠岐西方海域には冷水塊があるため平年より1~6°C低め、鳥取~兵庫沖合では0~2°C高めとなっています。



兵庫県沖合に、北緯38°00'付近に暖水塊があります。

水産試験場



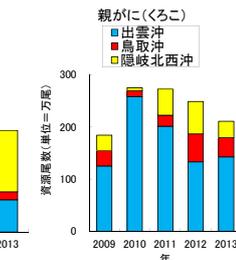
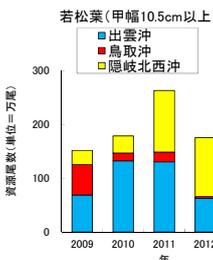
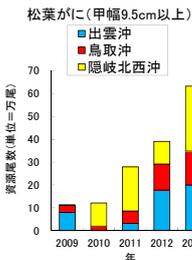
ズワイガニの平成25年漁期の見通し

○10月2~29日にかけて「試験船第一鳥取丸」でトロールによるズワイガニ漁期前調査を行いました。

○その結果、今漁期の「松葉がに」は小~中型個体を主体に大型個体の漁獲もやや見込まれ前年並み、「若松葉」は前年並み、「親がに(雌)」は前年並みかやや下回る見通しです。

○漁期全般：若松葉と親がにで漁期が短縮されることから漁期全般の漁獲量は平年並みとなる見通しです。

松葉がに...前年並み
若松葉...前年並み
親がに...前年をやや下回る



年別海域別の資源尾数

平成25年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。



共和水産株式会社

代表取締役会長 相田 仁

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL 0859-44-7171 (代) FAX 0859-42-6530

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136

電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424

境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

★水産課からのお知らせ★

~県内各地で水産関係のイベントを実施しました~

11月は松葉がにの解禁と共に県内各地で水産をPRするイベントが開催されました。イベントでは多くの漁業者の方にも参加頂き、魚の捌き方講習会等を実施しました。参加者からは大変好評な意見を頂いておりますので、今後とも協力の方をお願いします!

漁業士会による鳥取短期大学の料理交流会



漁業士会の漁業者が短期大学生51名にハマチのさばき方の講習を実施。

鳥取がにフェスタ2013



毎年恒例の親がに釣りや勝つと松葉がにがもらえとトリとのジャンケン大会は大盛況。

田後港大漁感謝祭



ステージイベントやお客さんがセリ人になるセリ市体験は多くの来場者で賑わいました。

食のみやご大漁収穫感謝祭



漁業士会による魚の捌き方講習会やトリとの記念放流は来場者から大変好評でした。

■今月の漁業許可証更新情報

平成25年12月31日までに許可の更新が必要な漁業種類は以下のとおり
潜水器漁業...平成25年1月1日~25年12月31日まで
小型定置網漁業...平成23年1月1日~平成25年12月31日(浦富)

■遊漁船登録業者の皆様へ

遊漁船登録に保険期間等の変更があった時は、変更申請をお忘れなく

栽培漁業センター

来年、美保湾でヒラメ放流事業が12年ぶりに再開!

H19年から栽培漁業センターでは、漁業者に御協力いただき、大型ヒラメ稚魚(全長約10cm)の試験放流とその効果調査を行ってきました。これまでの結果では、放流群によって、回収率(放流魚の漁獲尾数÷放流尾数)は3.5~16.1%と大きく差がありますが、平均で9.3%と過去の回収率(最高4.9%)と比べても良い成果が出ています(下表参照)。

(H25年8月31日現在)

| 目的 | 放流尾数(尾) | 放流地区数 | 回収尾数(尾) | 回収率 | 追跡必要年数 |
|----------|----------------------------------|-------|---------|-------|---------|
| H19年放流群 | 60,700 | 2 | 9,802 | 16.1% | 完了 |
| H20年放流群 | 61,100 | | 2,120 | 3.5% | 完了 |
| H21年放流群 | 57,100 | 2 | 2,069 | 3.6% | 完了 |
| H22年放流群 | 68,610 | | 10,390 | 15.1% | あと4カ月 |
| H23年放流群 | 環境収容力の把握(従来の約2倍) ※境港地区の漁獲尾数相当 | 1 | 4,003 | 7.1% | あと1年4カ月 |
| H24年放流群 | 環境収容力の把握(従来の2/3) | | 1,748 | 2.8% | あと2年4カ月 |
| H25年放流群 | 小型化(全長85mm)の検討 | 3 | 76,000 | | これから |
| H19~23平均 | 60,802 | | 5,677 | 9.3% | |

この成果を受け、11月18日の美保湾地域栽培漁業推進協議会にて、「来年度からの事業放流(全長9cm、3万尾)の実施」について決議が取られ、委員の皆様から了承が得られました。昨今の漁業経営、組合運営が厳しい折、放流尾数は半減するものの、今後も継続した「県魚ヒラメ」の放流が行われる道筋が出来、喜ばしい限りです。

H25年1~11月の境港小型底びき網の平均混獲率(放流魚÷総漁獲尾数)は13.1%と非常に高い数値で推移しているよ(10.11月は混獲率15%以上)。

